
2020

南山大学大学院学生便覧

学位論文審査基準
研究指導計画

学位論文審査基準
人間文化研究科

専攻名	学位論文審査基準
キリスト教思想専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文] 修士論文の当該専門分野における精深な学識と研究能力とを示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (研究テーマ、研究目的の適切性) 研究のテーマや目的が明確であり、学術的な意義を有していること。 (研究方法の適切性) 先行研究を踏まえており、研究のために必要な文献、資料等を適切に収集、分析、処理していること。 (論証の適切性) 論証の展開が明確であり、整合性を有していること。 (専門性) 専攻分野における研究能力および専門性を有する職業等に必要の高度の学識を有すると認められること。 (倫理性) 研究者倫理が守られていること。</p> <p>[特定課題研究] 特定の課題についての研究は、当該専門分野一般について、広範な学識と研究能力を示すに足るものをもって合格とする。ただし特定課題に関して、その目的と学術的ないし社会的意義を論じた成果報告書を併せて提出すること。また共同制作である場合は各自の担当部分を明確化すること。審査委員会は修士論文と同様に構成され、特定課題と成果報告書について総合的な審査を行う。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (課題の目的と有用性) 課題設定の目的が明確で、社会的および学術的有用性が認められること。 (方法論) 課題に対して斬新で妥当な方法によってアプローチされていること。 (倫理性) 研究倫理にかなった研究であること。</p>
宗教思想専攻 (博士後期課程)	<p>[博士論文] 博士論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行う、または、その他の高度な専門的業務に従事するに必要な高度の研究能力を有することを示すものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (研究テーマ、研究目的の適切性) 研究のテーマや目的が明確であり、学術的な意義を有していること。 (研究方法の適切性) 先行研究を踏まえており、研究のために必要な文献、資料等を適切に収集、分析、処理していること。 (論証の適切性) 論証の展開が明確であり、整合性を有していること。 (専門性) 専攻分野について自立して研究活動を行い、専門的業務に従事するのに必要な高度の研究能力を有すると認められること。 (独創性) 学術上の貢献が認められる新たな知見や独創性があり、説得力ある論拠が示されていること。 (倫理性) 研究者倫理が守られていること。</p>

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）
人間文化研究科キリスト教思想専攻博士前期課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内にその主たる領域に基づいて指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	1年次の研究計画発表	1年次の研究計画を発表し、教員や学生から助言をもらう。
	Q3・Q4	10-11月	1年次の経過発表	1年次のこれまでの研究内容を披露、2年次の研究計画を発表して、教員や学生から意見をもらう。
2年次	Q1	4月	指導教員の決定	所定の期間内にその主たる領域に基づいて指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	2年次の研究計画発表	2年次の研究計画を発表し、教員や学生からの助言をもらう。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3・Q4	10-11月	中間発表会	修士論文等の現状報告をして、教員や学生から意見をもらう。
	Q4	1月	修士論文等の提出	修士論文等を提出する。
	Q4	2月	修士論文等の審査と最終試験	修士論文等の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、必要なときは筆答試験を併せて行う。
	Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

人間文化研究科宗教思想専攻博士後期課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内に主たる領域に基づいて指導教授を選び、科目の選択、論文の作成および研究全般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	1年次の研究計画発表	1年次の研究計画を発表し、教員や学生から助言をもらう。
	Q3・Q4	10-11月	1年次の経過発表	1年次のこれまでの研究内容を披露、2年次の研究計画を発表して、教員や学生から意見をもらう。
2年次	Q1	4月	指導教員の決定	所定の期間内にその主たる領域に基づいて指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	2年次の研究計画発表	2年次の研究計画を発表し、教員や学生からの助言をもらう。
	Q3・Q4	10-11月	2年次の経過発表	2年次のこれまでの研究内容を披露、3年次の研究計画を発表して、教員や学生から意見をもらう。
3年次	Q1	4月	指導教員の決定	所定の期間内にその主たる領域に基づいて指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	3年次の研究計画発表	3年次の研究計画を発表し、教員や学生から助言をもらう。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	10月	中間発表会	外部（他大学所属）審査員を招いて、審査を担当する教員全員から論文の草稿の批評を受ける。
	Q4	1月	博士論文の提出	博士論文を提出する。
	Q4	2月	博士論文の審査と最終試験	博士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、必要なときは筆答試験を併せて行う。
	Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準
人間文化研究科

専攻名	学位論文審査基準
人類学専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文]</p> <p>修士論文は、当該専門分野における精深な学識と研究能力とを示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題の目的と有用性) 学術的・社会的に適切な課題に対し、明確な研究目的が設定されていること。 (先行研究への配慮) 当該分野の先行する知見が適切に整理され、研究に反映されていること。 (方法論の適切性) 研究目的を達成するために妥当な方法が選択されていること。 (斬新性) 研究成果に新しい知見が含まれていること。 (論文の構成) 学術論文としてふさわしい形式(注記、引用文献の取り扱い等)を有し、文章表現や表記が適切であること。 (倫理性) 研究倫理にかなった研究であること。</p> <p>[特定課題研究]</p> <p>特定課題についての研究の成果は、当該専門分野一般について、広範な学識と研究能力を示すに足るものをもって合格とする。ただし特定課題に関して、その目的と学術的ないし社会的意義を論じた成果報告書を併せて提出すること。また共同制作である場合は各自の担当部分を明確化すること。審査委員会は修士論文と同様に構成され、特定課題と成果報告書について総合的な審査を行う。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題の目的と有用性) 課題設定の目的が明確で、社会的および学術的有用性が認められること。 (方法論) 課題に対して斬新で妥当な方法によってアプローチされていること。 (倫理性) 研究倫理にかなった研究であること。</p>
人類学専攻 (博士後期課程)	<p>[博士論文]</p> <p>博士論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を証示するに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題の目的と有用性) 学術的・社会的に適切な課題に対し、明確な研究目的が設定されていること。 (先行研究への配慮) 当該分野の先行する知見が適切に整理され、研究に反映されていること。 (方法論の適切性) 研究目的を達成するために妥当な方法が選択されていること。 (斬新性) 研究成果に新しい知見が含まれていること。 (論文の構成) 学術論文としてふさわしい形式(注記、引用文献の取り扱い等)を有し、文章表現や表記が適切であること。 (専門性) 専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要高度な学識を有すると認められること。 (倫理性) 研究倫理にかなった研究であること。</p>

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール） 人間文化研究科人類学博士前期課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内にその主たる領域に基づいて指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	合同研究会での発表	これまでの研究を紹介し、これからの研究計画を発表する。
	Q3・Q4	11-12月	合同研究会での発表	研究の進捗状況、および今後の研究計画を発表する。
2年次	Q1・Q2	5-6月	合同研究会での発表	修士論文等の構成、進捗状況、今後の執筆計画を発表する。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3・Q4	11-12月	修士論文等の中間発表	合同研究会において修士論文等の中間発表を行う。審査委員から改稿に向けた指導を受ける。
	Q4	1月	修士論文等の提出	修士論文等を提出する。
	Q4	2月	修士論文等の審査と最終試験	修士論文等の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、必要なときは筆答試験を併せて行う。
Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。	

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール） 人間文化研究科人類学専攻博士後期課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内に主たる領域に基づいて指導教授を選び、科目の選択、論文の作成および研究全般についてその指導に従うものとする。
	Q1・Q2	5-6月	合同研究会での発表	これまでの研究を紹介し、博士後期課程の研究計画を発表する。
	Q3・Q4	11-12月	合同研究会での発表	研究の進捗状況、および今後の研究計画を発表する。
2年次	Q1・Q2	5-6月	合同研究会での発表	研究の進捗状況、および今後の研究計画を発表する。
	Q3・Q4	11-12月	合同研究会での発表	研究の進捗状況、および今後の研究計画の発表する。
3年次	Q1・Q2	5-6月	合同研究会での発表	博士論文の構成、進捗状況、今後の執筆計画を発表する。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q2・Q3	8月	博士論文の下書き稿の提出	夏休み前に博士論文作成指導委員会に博士論文の下書き稿を提出する。その後、指導にしたがって改稿する。
	Q3	10月	博士論文の中間発表	合同研究会において博士論文の中間発表を行う。博士論文作成指導委員会から修正稿に向けた指導を受ける。
	Q4	1月	博士論文の提出	博士論文を提出する。
	Q4	2月	博士論文の審査と最終試験	博士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、必要なときは筆答試験を併せて行う。
Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。	

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準
人間文化研究科

専攻名	学位論文審査基準
教育ファシリテーション専攻 (修士課程)	<p>[修士論文]</p> <p>修士論文は、当該専門分野における精深な学識と研究能力とを示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(研究目的の適切性) 学術的・社会的に適切な課題に対し、明確な研究目的が設定されていること。</p> <p>(学識) 当該分野の先行する知見が適切に整理され、研究に反映されていること。</p> <p>(方法の適切性) 研究目的を達成するために適切な方法が選択されていること。</p> <p>(独自性) 研究成果に独自の知見が含まれていること。</p> <p>(形式的適切性) 学術論文として適切な構成と体裁であること。</p> <p>(倫理性) 倫理性をふまえた研究であること。</p>
	<p>[特定課題研究]</p> <p>特定課題についての研究の成果は、当該専門分野一般について、広範な学識と研究能力を示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題設定の適切性) 課題設定の目的が明確で、社会的および学術的有用性が認められること。</p> <p>(学識) 当該分野に関する知見が課題に対するアプローチおよび成果に反映されていること。</p> <p>(課題に対するアプローチの独自性および適切性) 課題に対して独自性のある、適切な方法によってアプローチされていること。</p> <p>(倫理性) 倫理性をふまえた研究であること。</p>

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

人間文化研究科教育ファシリテーション専攻・修士課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月～5月	研究指導教員全員からの指導	「研究指導 I A」において、研究指導教員全員から指導を受ける。
	Q1	5月末	指導教員の決定	「研究指導 I A」での指導に基づいて、主たる領域および指導教員を選ぶ。履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。また、副指導教員が定められ、適宜その指導を受ける。
	Q2-Q4	6月～1月	指導教員による研究指導	指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受ける。
2年次	Q1-Q4	4月～1月	指導教員による研究指導	指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受ける。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3・Q4	11月	修士論文等の中間審査	中間審査用論文等を期限までに提出し、主査・副査による中間審査を受ける。
	Q4	1月	修士論文等の提出	修士論文等を提出する。
	Q4	1月末～2月	修士論文等の審査	修士論文等の審査と最終試験が、研究科委員会において設けられた学位審査委員会によって行われる。
	Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準
人間文化研究科

専攻名	学位論文審査基準
言語科学専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文] 修士論文の当該専門分野における精深な学識と研究能力とを示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (研究テーマ、研究目的の適切性) 研究のテーマや目的が明確であり、学術的な意義を有していること。 (研究方法の適切性) 先行研究を踏まえており、研究のために必要な文献、資料等を適切に収集、分析、処理していること。 (論証の適切性) 論旨の展開が明確であり、整合性を有していること。 (専門性) 専攻分野における研究能力および専門性を有する職業等に必要の高度の学識を有すると認められること。 (形式的妥当性) 学位論文としてふさわしい形式(注記、引用文献の取扱等)を有し、文章表現や表記、図版、表などの使用が適切であること。 (学術上の貢献) 新たな知見や独創性が備わっており、主張に学術上の貢献が認められること。 (倫理性) 研究者倫理が守られていること。</p> <p>[特定課題研究] 特定の課題についての研究は、当該専門分野一般について、広範な学識と研究能力を示すに足るものをもって合格とする。ただし特定課題に関して、その目的と学術的ないし社会的意義を論じた成果報告書を併せて提出すること。また共同制作である場合は各自の担当部分を明確化すること。審査委員会は修士論文と同様に構成され、特定課題と成果報告書について総合的な審査を行う。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (課題の目的と有用性) 課題設定の目的が明確で、社会的および学術的有用性が認められること。 (方法論) 課題に対して斬新で妥当な方法によってアプローチされていること。 (倫理性) 研究倫理にかなった研究であること。</p>
言語科学専攻 (博士後期課程)	<p>[博士論文] 博士論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行う、または、その他の高度な専門的業務に従事するのに必要な高度の研究能力を有することを示すものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (研究テーマ、研究目的の適切性) 研究のテーマや目的が明確であり、学術的な意義を有していること。 (研究方法の適切性) 先行研究を踏まえており、研究のために必要な文献、資料等を適切に収集、分析、処理していること。 (論証の適切性) 論旨の展開が明確であり、整合性を有していること。 (専門性) 専攻分野について自立して研究活動を行い、専門的業務に従事するのに必要な高度の研究能力を有すると認められること。 (形式的妥当性) 学位論文としてふさわしい形式(注記、引用文献の取扱等)を有し、文章表現や表記、図版、表などの使用が適切であること。 (学術上の貢献) 新たな知見や独創性が備わっており、主張に学術上の貢献が認められ、当該分野の学会誌などへの投稿が十分に考えられる水準に達していること。 (倫理性) 研究者倫理が守られていること。</p>

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

人間文化研究科言語科学専攻博士前期課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内にその主たる領域に基づいて指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q1-Q4	4月～1月	指導教員による研究指導ならびにランチタイムトーク等の研究発表会参加	研究指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受ける。ランチタイムトーク等の研究発表会に参加し、研究の視野を広げる。
2年次	Q1-Q4	4月～1月	指導教員による研究指導ならびにランチタイムトーク等の研究発表会参加	研究指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受ける。ランチタイムトーク等の研究発表会に参加し、研究の視野を広げる。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	10月	修士論文等中間報告会	修士論文等の中間発表を行う。指導教員をはじめ、専攻の教員、学生から発表に対するフィードバックを受ける。
	Q4	1月	修士論文等の提出	修士論文等を提出する。
	Q4	1月末～2月	修士論文等の審査と最終試験	修士論文等の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、必要なときは筆答試験を併せて行う。
	Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

人間文化研究科言語科学専攻博士後期課程

年次	時期		項目	内容
1年次	Q1	4月	指導教員の決定ならびにアドバイザー・コミッティーの組織	入学後所定の期間内に主たる領域に基づいて指導教授を選び、科目の選択、論文の作成および研究全般についてその指導に従うものとする。加えて、より多くの視点からの幅広く丁寧な指導を受けるために、指導教員、副指導教員を含む数名から構成される「アドバイザー・コミッティー」を組織する。
	Q1-Q4	4月～1月	指導教員による研究指導ならびにランチタイムトーク等の研究発表会参加	研究指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受けるほか、アドバイザー・コミッティーからの助言を受ける。ランチタイムトーク等の研究発表会に参加し、研究の視野を広げる。
	Q4	12月	博士後期課程研究進捗状況報告会	研究発表を行い、研究の進捗状況を披露する。指導教員をはじめ、専攻の教員、学生から発表に対するフィードバックを受ける。
2年次	Q1-Q4	4月～1月	指導教員による研究指導ならびにランチタイムトーク等の研究発表会参加	研究指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受けるほか、アドバイザー・コミッティーからの助言を受ける。ランチタイムトーク等の研究発表会に参加し、研究の視野を広げる。
	Q2とQ4に一度ずつ	春学期、秋学期に一度ずつ	博士後期課程研究進捗状況報告会	研究発表を行い、研究の進捗状況を披露する。指導教員をはじめ、専攻の教員、学生から発表に対するフィードバックを受ける。
	Q3	9月	博士論文提出資格論文の提出	指導教員の承認を得て博士論文提出資格論文を提出する。博士論文提出資格審査は、博士論文提出資格論文提出後に実施する口述試験をもって合否を決定する。(2年次に提出しない場合は、3年次の4月に提出する。)
3年次	Q1-Q4	4月～1月	指導教員による研究指導ならびにランチタイムトーク等の研究発表会参加	研究指導教員による研究指導を受ける。また、適宜、副指導教員による指導を受けるほか、アドバイザー・コミッティーからの助言を受ける。ランチタイムトーク等の研究発表会に参加し、研究の視野を広げる。
	Q1	4月	博士論文提出資格論文の提出	指導教員の承認を得て博士論文提出資格論文を提出する。博士論文提出資格審査は、博士論文提出資格論文提出後に実施する口述試験をもって合否を決定する。
	Q2とQ4に一度ずつ	春学期、秋学期に一度ずつ	博士後期課程研究進捗状況報告会	研究発表を行い、研究の進捗状況を披露する。指導教員をはじめ、専攻の教員、学生から発表に対するフィードバックを受ける。
	Q2	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	10月	博士論文中間審査	学位論文審査委員会による中間審査を受けるとともに、博士論文修正に向けた指導を受ける。
	Q4	1月	博士論文の提出	博士論文を提出する。
	Q4	2月	博士論文の審査と最終試験	博士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、必要なときは筆答試験を併せて行う。
	Q4	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準

国際地域文化研究科

専攻名	学位論文審査基準
国際地域文化専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文] 「修士論文は、専門分野における豊かな学識と研究能力を有すると認められるものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。」</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 論文の体裁 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 論文の章別構成が明確に提示されているか。 b. 誤字、脱字などの不注意によるミスはないか。 c. 本文中の段落、引用部分の記述に問題はないか。 d. 注、参考文献の体裁は整っているか。 (2) 先行研究に関する言及との関連 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 当該テーマの先行研究が整理されたうえで立論がなされているか。 b. 研究の枠組ならびに研究の意義が明示されているか。 (3) 文献の利用目的 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. データあるいは史(資)料をもとに説得的に論証されているか。 b. 引用文、図表などが論述と適合しているか。 (4) 全体の論旨の展開 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 全体として、説得力ある論述が展開されているか。 b. 論拠が的確に示されているか。 c. 結論が明確に提示され、問題設定・研究課題と符合しているか。 (5) 学術的価値、独創性等 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. テーマ・問題設定が明確に示されているか。問題設定に独創性が認められるか。 b. 研究方法が適切か。研究方法に独創性が認められるか。 (6) 研究倫理 (P/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 研究倫理にかなった研究であるか。
国際地域文化専攻 (博士後期課程)	<p>[博士論文] 「博士論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められるものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。」</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 論文の体裁 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 論文の章別構成が明確に提示されているか。 b. 誤字、脱字などの不注意によるミスはないか。 c. 本文中の段落、引用部分の記述に問題はないか。 d. 注、参考文献の体裁は整っているか。 (2) 先行研究に関する言及との関連 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 当該テーマの先行研究が整理されたうえで立論がなされているか。 b. 研究の枠組ならびに研究の意義が明示されているか。 (3) 文献の利用目的 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. データあるいは史(資)料をもとに説得的に論証されているか。 b. 引用文、図表などが論述と適合しているか。 (4) 全体の論旨の展開 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 全体として、説得力ある論述が展開されているか。 b. 論拠が的確に示されているか。 c. 結論が明確に提示され、問題設定・研究課題と符合しているか。 (5) 学術的価値、独創性等 (A+/A/B/C/F) <ol style="list-style-type: none"> a. テーマ・問題設定が明確に示されているか。問題設定に独創性が認められるか。 b. 研究方法が適切か。研究方法に独創性が認められるか。 (6) 研究倫理 (P/F) <ol style="list-style-type: none"> a. 研究倫理にかなった研究であるか。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

国際地域文化研究科博士前期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1	研究テーマの絞込み	入学直前に開催されるオリエンテーション時に指導教員と副指導教員を決定する。授業科目「研究指導Ⅰ」において指導教員の指導の下で、具体的な研究課題を模索しながら、文献検索と主要先行研究の内容分析、さらに研究史の整理を行いつつ、修士論文で取り組む研究テーマを絞らせる指導を行う。
	Q2	資料収集	研究テーマに即した先行研究を渉猟し、合わせて将来のキャリア・プランを構想するために、海外でのフィールドワークやインターンシップ等への積極的な参加を促す。
	Q3	先行研究のまとめ	授業科目「研究指導Ⅱ」において指導教員の指導の下で、参考文献のレビューを行いながら、参考文献表を作成し先行研究をまとめ、修士論文におけるリサーチ・クエスション（研究課題の核となる問、以下RQと略）を設定させる。
	Q4	RQと章構成の構想	授業科目「研究指導Ⅲ」において指導教員の指導の下で、集積したデータと理論的・方法的視座に基づいたデータ分析のスキルをブラッシュ・アップし、参考文献表の充実化を図り、RQを再吟味し、修士論文の章構成を構想させる。
2年次	Q1	修士論文の概要発表	授業科目「研究指導Ⅳ」において指導教員の指導の下で、5月中旬頃に開催される公開の第1回目の中間発表会（中間審査）でのプレゼンテーションへ向けて、さらに参考文献表を充実させ、設定されたRQを再検討しつつ章構成を確定させる。
	Q2	学位論文計画書の提出	中間的な審査を兼ねた第1回中間発表会において受けたコメントや修正提案をもとに修士論文の構想について研究課題の更なる追究を行いつつ、将来のキャリア・プランも見据えて、海外でのフィールドワークやインターンシップ等へも必要に応じて積極的な参加を促す。なおこの間に「学位論文計画書」を作成させ、6月中旬に提出させる。
	Q3	第2回中間発表会の準備	授業科目「研究指導Ⅴ」において指導教員の指導の下で、第1回中間発表会の折に他の教員や院生等から受けた助言や指摘を基に修士論文の章構成などの修正を加えたのち、具体的に執筆を開始し、11月中旬頃に予定される公開の第2回中間発表会（中間審査）に備えさせる。
	Q4	修士論文の完成	授業科目「研究指導Ⅵ」において指導教員の指導の下で、第2回中間発表会の折に他の教員や院生等から受けた助言や指摘を基に修正を加えつつ、修士論文を完成させるべく最終的な指導を行う。修士論文最終草稿を12月中旬に設定された期日までに研究科事務室に提出させ、指導教員の最終チェックを経て、提出期限（通常は1月20日）までに完成版を教務課に提出させる。1月末から2月初旬にかけて修士論文の口頭による試験と必要に応じて筆記による試験を行うとともに、主査1名、副査2名の教員によって審査を行う。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

国際地域文化研究科博士後期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1・2	研究計画の立案と先行研究のまとめ	入学直前に開催されるオリエンテーション時に指導教員と副指導教員を決定する。Q1に開講される「研究指導ⅠA」において研究指導教員の指導の下で、5月中旬頃に予定される公開の研究計画発表会を目指して、博士論文の完成までの研究計画の策定を援助し、Q2に開講される「研究指導ⅠB」において研究指導教員の指導の下で、まず5月中旬頃に実施される後期課程指導教員全員が参加する公開の「研究計画発表会」で得られる助言や指摘を踏まえて研究計画や参考文献表の補正を行わせるとともに先行研究の適切な総括を行わせながら、独自のリサーチ・クエスチョン（研究課題の核となる問、以下RQと略）を設定させる。さらに並行して関連する学会での口頭発表や学術雑誌への投稿論文の執筆を促す。
	Q3・4	研究計画に沿った研究の推進	「研究指導ⅡA・B」において研究指導教員の指導の下で、研究計画に基づいて先行研究の収集と分析を続けつつ、設定したRQの再検討を重ねつつ研究史を総括し、RQを補強するメイン・クエスチョン（以下MQと略す）の策定に努め、それらを基に、博士論文の暫定的な章構成の策定ができるように支援する。学術雑誌への投稿論文の執筆と投稿を促す。
2年次	Q1・2	博士論文構想発表会	「研究指導ⅢA・B」において研究指導教員の指導の下で、当面は6月下旬に予定される博士後期課程指導教員全員が参加して公開で行われる博士論文構想発表会でのプレゼンテーションを目指し、必要に応じてフィールドワークを交えつつ資料や文献の収集と適切な分析を行うとともに、研究方法に関する最新の理論的検証も行えるように支援する。
	Q3・4	博士論文提出要件の充足	「研究指導ⅣA・B」において研究指導教員の指導の下で、博士論文構想発表会で得られた助言や指摘を踏まえて適宜RQやMQおよび章構成を再検討させ、さらなる資料や文献の渉猟と分析を促すとともに、各章の執筆開始を促す。併せて博士論文の構想を関連学会での口頭発表や博士論文の提出要件としての論文2本以上の学術雑誌への掲載を奨励する。
3年次	Q1・2	博士論文中間審査	「研究指導ⅤA・B」において研究指導教員の指導の下で、博士後期課程の集大成として、これまでの研究指導において深化され具体化された博士論文の最終構想に基づいて実際に執筆にとりかかるために、まず参考文献表のさらなる充実化と章構成の再検討を行い、その上で具体的な博士論文執筆の指導を行い、6月中旬に学位論文計画書を提出させる。また7月中旬頃に予定される博士後期課程指導教員全員が参加して公開で行われる公開の博士論文中間発表会（中間審査）でのプレゼンテーションの準備に向けての指導も行う。並行して、この間に学会での口頭発表や論文の投稿を促す。
	Q3・4	博士論文の完成	「研究指導ⅥA・B」において研究指導教員の指導の下で、これまでの研究指導と博士論文中間発表会を受けての調整を踏まえ、博士論文に関する具体的な執筆の指導を行い、博士論文を完成させ提出期限（通常は1月20日）までに完成版を教務課に提出させる。1月末から2月上旬にかけて口頭と必要に応じて筆記での最終試験を行うとともに、主査1名、副査2名以上（外部の研究者を含む）による審査を行い、3月の卒業式で学位を授与し、1年以内に博士論文全文を公表する（機関リポジトリにて）。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準
社会科学研究科

専攻名	学位論文審査基準
経済学専攻 経営学専攻 総合政策学専攻 (博士前期課程)	[修士論文] I. 形式上の基準:修士論文としてふさわしい形式を有しているか。 ① 論文題目の設定、章の構成が適切なものであるか。 ② 文章表現や、先行研究・資料の引用の仕方、脚注の表記等が適切であるか。 II. 内容上の基準:修士論文としてふさわしい内容を有しているか。 ① 研究方法が適切であるかどうか。必要な資料、文献、データ等を収集して適切な分析が行われているか。 ② 当該分野における先行研究が踏まえられているか。 ③ 論理の展開が明快であり、整合的であるか。 III. その他 研究倫理上、問題はないか。
総合政策学専攻 (博士前期課程)	[特定課題研究] 特定課題についての研究の成果は、当該専門分野一般について、広範な学識と研究能力を示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。 (課題設定の適切性) 課題設定の目的が明確で、社会的および実践の有用性が認められること。 (学識) 当該分野に関する知見が課題に対するアプローチおよび成果に反映されていること。 (課題に対するアプローチの適切性) 課題に対して適切な方法によってアプローチされていること。 (倫理性) 研究倫理上、問題がないこと。
経済学専攻 経営学専攻 総合政策学専攻 (博士後期課程)	[博士論文] I. 形式上の基準:博士論文としてふさわしい形式を有しているか。 ① 論文題目の設定、章の構成が適切なものであるか。 ② 文章表現や、先行研究・資料の引用の仕方、脚注の表記等が適切であるか。 II. 内容上の基準:博士論文としてふさわしい内容を有しているか。 ① 研究方法が適切であるかどうか。必要な資料、文献、データ等を収集して適切な分析が行われているかどうか。 ② 当該分野における内外の先行研究が十分に踏まえられているか。 ③ 論理の展開が明快であり、整合的であるか。 ④ 独創的な部分、または学術上の貢献がみられるか。 III. その他 研究倫理上、問題はないか。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

社会科学研究科博士前期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1	指導教員の決定	<p>【経済学専攻】 新入生ガイダンスを実施し、履修等に関する説明と指導をおこなう。「専攻科目」の中から専修すべき科目「専修科目」を決定し、この科目の研究指導科目を担当する教授を指導教員とする。学生は、専修科目以外の授業科目の履修選択、論文の作成、研究一般については、指導教員の指導を受けなければならない。</p> <p>【経営学専攻】 新入生ガイダンスを実施し、履修等に関する説明と指導をおこなう。指導教員を選び、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。</p> <p>【総合政策学専攻】 新入生ガイダンスを実施し、履修等に関する説明と指導をおこなう。国際政策領域、公共政策領域の2つの研究領域から主たる研究領域を決定して指導教員を選び（これら2つの研究領域は共に環境政策領域を含む）、履修指導全般および研究一般についてその指導に従うものとする。</p>
	Q1	研究計画の策定	指導教員および副指導教員の指導に従い、研究テーマの決定、研究計画の策定を行う。
	Q2	修士論文プロポーザル公聴会 ※経営学専攻のみ	【経営学専攻】 1年次において、本専攻が指定する所定の時期に修士論文プロポーザル公聴会を受けなければならない（3年修了予定者は2年次と読み替えることとする）。
	Q2-Q4	研究計画の実行	指導教員および副指導教員の研究指導を受けながら、策定した研究計画に基づいて、研究を実行する。
2年次	Q1-Q4	研究の継続	指導教員および副指導教員に研究計画の進捗状況を適宜報告することによって研究指導を受け、研究を継続する。
	Q2	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	中間報告	修士論文を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間報告を行わなければならない。中間報告の実施日程については本研究科委員会の議を経るものとする。
	Q4	修士論文の提出	中間報告における審査委員のコメント等に基づき、指導教員および副指導教員による研究指導を受けて研究を完成させ、修士論文を提出する。
	Q4	修士論文等の審査と最終試験	修士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試問を併せて行うことがある。
	Q4	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

社会科学研究科博士前期課程（経済学専攻 社会人1年コース）

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1	指導教員の決定	新入生ガイダンスを実施し、履修等に関する説明と指導をおこなう。「専攻科目」の中から専修すべき科目「専修科目」を決定し、この科目の研究指導科目を担当する教授を指導教員とする。学生は、専修科目以外の授業科目の履修選択、論文の作成、研究一般については、指導教員の指導を受けなければならない。
	Q1	研究計画の策定	指導教員および副指導教員の指導に従い、研究テーマの決定、研究計画の策定を行う。
	Q2	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q2-Q4	研究計画の実行	指導教員および副指導教員の研究指導を受けながら、策定した研究計画に基づいて、研究を実行する。
	Q3	中間報告	修士論文を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間報告を行わなければならない。中間報告の実施日程については本研究科委員会の議を経るものとする。
	Q4	修士論文の提出	中間報告における審査委員のコメント等に基づき、指導教員および副指導教員による研究指導を受けて研究を完成させ、修士論文を提出する。
	Q4	修士論文等の審査と最終試験	修士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試験を併せて行うことがある。
Q4	学位の授与	学位が授与される。	

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

社会科学研究科博士前期課程（経済学専攻 長期在学コース）

年次	時期	項目	内容
1年次～	Q1	指導教員の決定	新入生ガイダンスを実施し、履修等に関する説明と指導をおこなう。「専攻科目」の中から専修すべき科目「専修科目」を決定し、この科目の研究指導科目を担当する教授を指導教員とする。学生は、専修科目以外の授業科目の履修選択、論文の作成、研究一般については、指導教員の指導を受けなければならない。
	Q1	研究計画の策定	指導教員および副指導教員の指導に従い、研究テーマの決定、研究計画の策定を行う。
	Q1	研究計画の実行	指導教員および副指導教員の研究指導を受けながら、策定した研究計画に基づいて、研究を実行する。
最終年次	Q1-Q4	研究の継続	指導教員および副指導教員に研究計画の進捗状況を適宜報告することによって研究指導を受け、研究を継続する。
	Q2	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	中間報告	修士論文を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間報告を行わなければならない。中間報告の実施日程については本研究科委員会の議を経るものとする。
	Q4	修士論文の提出	中間報告における審査委員のコメント等に基づき、指導教員および副指導教員による研究指導を受けて研究を完成させ、修士論文を提出する。
	Q4	修士論文等の審査と最終試験	修士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試験を併せて行うことがある。
Q4	学位の授与	学位が授与される。	

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

社会科学部研究科博士後期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1	指導教員の決定	新入生ガイダンスを実施し、履修等に関する説明と指導をおこなう。希望する研究分野に合わせて指導教員を選び、履修および研究についてその指導に従うものとする。また、複数指導体制をとるため、副指導教員をおく。学生は副指導教員にも適宜履修および研究についてその指導を仰ぐものとする。
	Q1	研究計画の策定	指導教員および副指導教員の指導に従い、研究テーマの決定、研究計画の策定を行う。
	Q2	研究計画の報告 ※総合政策学専攻のみ	【総合政策学専攻】 「研究指導ⅠB」において開催する研究計画セミナーにおいて、3年間の研究計画を作成し報告を行われなければならない。
	Q2-Q4	研究計画の実行	指導教員および副指導教員の研究指導を受けながら、策定した研究計画に基づいて、研究を実行する。
2年次	Q1-Q4	研究の継続	指導教員および副指導教員に研究計画の進捗状況を適宜報告することによって研究指導を受け、研究を継続する。
	Q2	博士論文プロポーザル公聴会 ※経営学専攻のみ	【経営学専攻】 博士論文を提出する年次の前の年次までに、本専攻が指定する所定の時期に博士論文プロポーザル公聴会を受けなければならない。
	Q3・Q4	研究計画の進捗報告 ※総合政策学専攻のみ	【総合政策学専攻】 「研究指導ⅡD」において開催する研究進行報告セミナーにおいて、過去1年半の研究の進行状況を、前年度に報告した研究計画と対照しつつ報告しなければならない。
3年次	Q1-Q4	研究の継続	指導教員および副指導教員に研究計画の進捗状況を適宜報告することによって研究指導を受け、研究を継続する。
	Q2	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	中間報告	博士論文を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間報告を行わなければならない。中間報告の実施日程については本研究科委員会の議を経るものとする。
	Q4	博士論文の提出	中間報告における審査委員のコメント等に基づき、指導教員および副指導教員による研究指導を受けて研究を完成させ、博士論文を提出する。
	Q4	博士論文の審査と最終試験	博士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試問を併せて行うことがある。
	Q4	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準

法学研究科

専攻名	学位論文審査基準
法律学専攻 (博士前期課程)	[修士論文] I. 形式上の基準:修士論文としてふさわしい形式を有しているか。 ① 論文題目の設定、章の構成が適切なものであるか。 ② 文章表現や、先行研究・資料の引用の仕方、脚注の表記等が適切であるか。 II. 内容上の基準:修士論文としてふさわしい内容を有しているか。 ① 研究テーマが専攻分野との関連で適切なものであり、学術的、実務的意義を有しているか。 ② 理論的または実証的研究の成果を含んでいるか。 ③ 先行研究が適切に参照され、研究の位置付けが明確であるか。 ④ 論文の体系性が認められ、専攻分野の研究に必要な専門性を示しているか。 III. その他 研究倫理上、問題はないか。
法律学専攻 (博士後期課程)	[博士論文] I. 形式上の基準:博士論文としてふさわしい形式を有しているか。 ① 論文題目の設定、章の構成が適切なものであるか。 ② 文章表現や、先行研究・資料の引用の仕方、脚注の表記等が適切であるか。 II. 内容上の基準:博士論文としてふさわしい内容を有しているか。 ① 研究テーマが専攻分野との関連で適切なものであり、学術的、実務的意義を有しているか。 ② 新規性、独創性が認められるか。 ③ 理論的または実証的研究の十分な成果を含んでいるか。 ④ 先行研究が適切に参照され、研究の位置付けが明確であるか。 ⑤ 論文の体系性が認められ、専攻分野の高度な研究に必要な専門性を示しているか。 III. その他 研究倫理上、問題はないか。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

法学研究科博士前期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内に研究分野を決定し、指導教授を選び、研究一般についてその指導に従うものとする。また、副指導教員を選び、指導教員は副指導教員と協力して、履修科目の指導、研究指導を行う。
2年次	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	11月	中間報告	修士論文を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間報告を行わなければならない。中間報告の実施日程については本研究科委員会の議を経るものとする。
	1月	修士論文の提出	修士論文を提出する。
	2月	修士論文の審査と最終試験	修士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆記試験を併せて行うことがある。
	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

法学研究科博士前期課程（長期履修者）

年次	時期	項目	内容
1年次	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内に研究分野を決定し、指導教授を選び、研究一般についてその指導に従うものとする。また、副指導教員を選び、指導教員は副指導教員と協力して、履修科目の指導、研究指導を行う。
2年次	4月～3月	専門分野のための科目履修と研究の継続	研究指導の中で、研究テーマの設定、資料収集を行う。
3年次	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	11月	中間報告	修士論文を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間報告を行わなければならない。中間報告の実施日程については本研究科委員会の議を経るものとする。
	1月	修士論文の提出	修士論文を提出する。
	2月	修士論文の審査と最終試験	修士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆記試験を併せて行うことがある。
	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

法学研究科博士後期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	4月	指導教員の決定	入学後所定の期間内にその主たる領域を決定し、指導教授を選び、研究一般についてその指導に従うものとする。また、複数指導体制をとるため、副指導教員をおく。副指導教員は、指導教員と連携を図りながら、学生の求めに応じて適宜、助言や指導を行う。
2年次	4月～ 3月	研究の継続	研究指導の中で、博士論文の全体構想を固める。
3年次	6月	学位論文計画書の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書を提出する。学位論文計画書は研究審査委員会の審査を受けなければならない。
	11月	中間報告	博士論文を提出しようとする者は、修了年度の11月末までに中間報告を実施しなければならない。
	1月	博士論文の提出	博士論文を提出する。
	2月	博士論文の審査と最終試験	博士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試問を併せて行うことがある。
	3月	学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

学位論文審査基準
理工学研究科

専攻名	学位論文審査基準
システム数理専攻 ソフトウェア工学専攻 機械電子制御工学専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文]</p> <p>修士論文は、専攻分野における精深な学識と研究能力とを証示するに足るものをもって合格とする。その判断基準は以下のとおりである。</p> <p>(1) 研究テーマが専攻分野との関連で適切なものであり、学術的、産業的意義を有している。</p> <p>(2) 新規性、独創性が認められる。</p> <p>(3) 理論的または実証的研究の成果を含んでいる。</p> <p>(4) 先行研究が適切に参照され、研究の位置付けが明確である。</p> <p>(5) 論文の体系性（全体としての主題を有すること）が認められる。</p> <p>(6) 専攻分野の研究能力または業務遂行に必要な専門性を示している。</p> <p>[特定課題研究]</p> <p>特定課題についての研究の成果は、高度の専門性を要する職業等に必要高度の学識や技術を有することを示すものをもって合格とする。ただし特定課題について、その目的と成果物の製作について記述した成果報告書を併せて提出すること。また共同制作である場合は各自の担当部分を明確にすること。審査委員会は修士論文と同様に構成され、成果報告書の内容を中心として、これに関連する学識や技術について総合的な審査を行う。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題の適切性)</p> <p>課題設定の目的が明確で、製作した成果物が高度の専門性を要する職業等における成果物相当と判断できること。</p> <p>(学識および技術)</p> <p>抽象的・一般的な視点から課題の本質を考察して適用する技術の比較検討を行い、高度の学識や技術が課題に対するアプローチおよび成果に反映されていること。</p> <p>(取組)</p> <p>成果物製作の取組によって高度の学識や技術が得られたと判断できること。</p> <p>(倫理性)</p> <p>人を対象とする研究などは研究審査委員会において、実施が承認されていること。</p>
システム数理専攻 ソフトウェア工学専攻 機械電子制御工学専攻 (博士後期課程)	<p>[博士論文]</p> <p>博士論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を証示するに足るものをもって合格とする。その判断基準は以下のとおりである。</p> <p>1. 博士論文に要求される内容と水準</p> <p>(1) 研究テーマが専攻分野との関連で適切なものであり、学術的、産業的意義を有している。</p> <p>(2) 新規性、独創性が認められる。</p> <p>(3) 理論的または実証的研究の十分な成果を含んでいる。</p> <p>(4) 先行研究が適切に参照され、研究の位置付けが明確である。</p> <p>(5) 論文の体系性（全体としての主題を有すること）が認められる。</p> <p>(6) 専攻分野の高度の研究能力または業務遂行に必要な専門性を示している。</p> <p>2. 博士論文に要求されるその他の要件</p> <p>(1) 査読付きの学術論文2編以上が学術論文誌、学術会議の論文集に掲載済み、あるいは掲載予定であること。ただし、少なくとも1編は学術論文誌への掲載であること。</p> <p>(2) 国際会議での研究発表の経験があること。ただし、(1)の少なくとも1編が英文（または日本語以外の言語）での記述である場合はこれを課さない。</p> <p>(3) 少なくとも1編以上の学術論文が博士課程での研究成果をまとめたものであること（課程博士の場合）。</p>

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

理工学研究科博士前期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1	指導教員の決定	入学後所定の期間内に、指導教員を選び、研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q3	研究活動の基礎スキルの指導	研究のための文献探索、文書作成、ソフトウェア使用方法習得など研究活動の基礎となるスキルについて指導する。
2年次	Q2	学位論文計画書等の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書等（論文の主題とその研究計画書）を提出する。学位論文計画書等は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	中間審査	修士論文等を提出しようとする者は、本研究科の定める所定の時期に中間審査を受けなければならない。
	Q4	修士論文等の提出 修士論文等の審査と最終試験 学位の授与	修士論文等を提出する。 修士論文等の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試験を併せて行うことがある。 研究科委員会の報告に基づき、学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。

研究指導計画（研究指導の方法とスケジュール）

理工学研究科博士後期課程

年次	時期	項目	内容
1年次	Q1	指導教員の決定	入学後所定の期間内に、指導教員を選び、研究一般についてその指導に従うものとする。
	Q3	学際的科目の履修指導	学際的分野の課題や他専攻の分野から提供された課題について研究を行わせる。
2年次	Q1	博士論文作成のための課題設定	指導教員とともに課題を設定し、研究課題についての調査と解決策の考案を行う。
	Q3	学界の動向の調査	研究課題についての学会の動向を調査して解決策を考案させる。
3年次	Q2	学位論文計画書等の提出	指導教員の承認を得て学位論文計画書等（論文の主題とその研究計画書）を提出する。学位論文計画書等は研究審査委員会の承認を受けなければならない。
	Q3	中間審査	博士論文を提出しようとする者は、論文提出期限の3か月前までに学位審査委員会の中間審査を受けなければならない。
		博士学位論文提出資格審査願いの提出	博士論文を提出するためには、論文題目、目次、要旨等を記載した博士学位論文提出資格審査願いを、博士学位論文の内容が公表済みであること（または予定であること）を示す資料、履歴書および履修・修得科目一覧と共に、指導教員の承認を得た上で提出しなければならない。博士学位論文提出資格審査願いについては研究科委員会の承認を受けなければならない。
	Q4	博士論文の提出	博士論文を提出する。
		博士論文の審査と最終試験	博士論文の審査と最終試験は、研究科委員会において学位審査委員会を設けて行う。最終試験は、論文審査の終了後、口頭で行う。ただし、筆答試験を併せて行うことがある。
		学位の授与	学位が授与される。

※上記は3月修了の流れです。9月修了のスケジュールは各専攻の「履修要項」頁等をご確認ください。